

2018年7月12日  
株式会社インプレスR&D

<https://nextpublishing.jp/>

Chrome、Safari、Firefox、Edge、Internet Explorer 11 対応！  
**『最新ブラウザ対応で気持ちよく書く CSS デザイン』発行**  
技術書典シリーズ、7月の新刊

インプレスグループで電子出版事業を手がける株式会社インプレス R&D は、『最新ブラウザ対応で気持ちよく書く CSS デザイン』(著者: 吉川 雅彦)を発行いたします。

『最新ブラウザ対応で気持ちよく書くCSSデザイン』  
<https://nextpublishing.jp/isbn/9784844398349>



著者: 吉川 雅彦  
小売希望価格: 電子書籍版 1600 円(税別) / 印刷書籍版 1800 円(税別)  
電子書籍版フォーマット: EPUB3 / Kindle Format8  
印刷書籍版仕様: B5 判 / カラー / 本文 76 ページ  
ISBN: 978-4-8443-9834-9  
発行: インプレス R&D

<< 発行主旨・内容紹介 >>

【対応ブラウザで迷っていませんか？最新ブラウザ対応で気持ちよくコーディングしましょう！】

本書は、ウェブブラウザシェアの約95%を占める最新ブラウザ(IE11、Chrome、Safari、Firefox、Edge)向けのCSSを駆使することで、作りたいものが作れる、やりたいことができる＝気持ちよくウェブ開発のコーディングを行うためのノウハウ集です。

(本書の対象読者)

CSSとHTMLをある程度知っているデザイナー  
IE6～8時代にコーディングしていたコーダー

## 最新ブラウザに対応を絞ること、その恩恵を統計をもとに紹介

### 1.1 IE11以上対応という選択肢

対応ブラウザを決める場面というのは多くありますが、どうやって決めていますか？

#### 1.1.1 対応ブラウザの決め方

対応ブラウザの選定には、以下のような方法があります。

- ・ブラウザのサポート状況
- ・ブラウザのシェア
- ・サイトでのやりたいこと
- ・コーディングのしやすさ

シェアやサポート状況から決めた場合の課題

単純にシェアやサポート状況から決めてしまうと、次のような問題があります。

- ・制作工数がかかる
- ・制作者の不満がたまる

- ・収入源となるユーザーがアクセスできない
- ・売上げの増加とコストの削減を考慮して決めた方が良いでしょう。

売上げの増加とコストの削減から対応ブラウザを決める

以下は例です。

- ・エンジニアに気持ちよく開発してもらい、退職率を減らすことでコストを削減。提供する技術でユーザーによりよい体験をしてもらってリピーター率を高め、売上げを上げる。そのために対応ブラウザは常に最新のものにする
- ・一方でアクセス解析を見ると、古いブラウザからの方がコンバージョン（サイトで達成させたいこと）率が高いため、古いブラウザにも対応させる必要がある

#### 1.1.2 国内で一般的なサイトを作る場合

とはいいつつも、現状国内で一般的なサイトを作る場合にはInternet Explorer 11（以降IE11）以上対応と決め打ちしてよいと筆者は考えます。ここでいうIE11以上対応とは、「IE11以上」[Chrome 最新バージョン]「Firefox 最新バージョン」[Edge 最新バージョン]「Safari103以上」と同じ意味となります。（以降これらをまとめて「最新ブラウザ」とします）

以下が、「IE11以上対応でよい」と考える理由です。

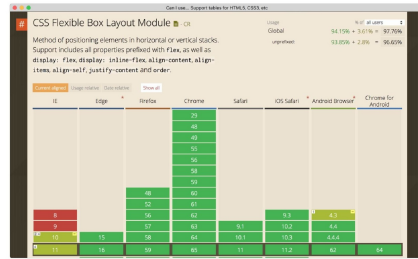
- ・IE10のサポートが切れている
- ・IE11のサポート切れがまだ先である（クライアント向けOSの場合、2025年の10月）
- ・上記すべてのブラウザの合計で90～95%のシェアがある
- ・IE11以上だと「気持ちよく」コードが書ける！

#### 1.1.3 アクセシビリティを担保する

さて、IE11以上に対応といったときに「IE10」はまったく考慮しないでしょうか。もしくは「IE11以上」に対応。IE10はアクセシビリティを担保するという形にするでしょうか。

web制作の現場ではそのどちらもありません。「アクセシビリティを担保する」というのは「意図どおりのデザインではないが、情報にはアクセスできる」ということです。CSSは、通常見た目の体裁を整えるために使われるため、positionプロパティや、displayプロパティなどを多用しなければ、まったくアクセスできなくなることはないでしょう。

#### 1.1.4 なにがどのブラウザに対応しているか



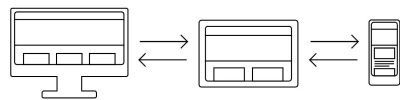
Can I Use <https://caniuse.com/>

などで調べると良いでしょう。調べたいブラウザが出てこない場合は「Settings」から変更できます。

また、MDN (<https://developer.mozilla.org/ja/>)のサイトも参考になります。

## 実際のコーディングを「気持ちよく」行うための様々な CSS ノウハウを掲載

### 3.1 メディアクエリーでレスポンス化



スマートフォンとPCの表示をワンソースで表現するためになくてはならないものが、メディアクエリーです。@mediaルールで、ブレイクポイントと呼ばれる分岐点を設定し、画面のサイズによってCSSを出し分けることができます。

#### 3.1.1 メディアクエリーの記述例

```
<meta name="viewport" content="width=device-width,
initial-scale=1">
```

```
.nav {
  display: inline-block;
}
@media screen and (max-width: 980px) and (min-width: 321px) {
  h1 {
    padding: @.1em;
  }
}
@media screen and (max-width: 320px) {
  .nav {
    display: block;
  }
}
```

上記では、.navが指定されている要素は横並びになっています。画面のサイズが980px～321pxの間になると、h1要素にpadding:@.1emが適用されます。320px以下の場合にはdisplay

プロパティの値が変わります。

@mediaの後に条件をつけることが可能で、andで複数の条件を指定しています。

@media only screenのようにonlyという記述も見られますが、メディアクエリーに対応していない古いブラウザのための記述なので現在は必要ないでしょう。

screenは一般的なディスプレイを表します。printを設定すると印刷時のCSSを適用することも可能で、簡易的なものであれば印刷用のページを別に用意する必要ありません。

ブレイクポイントの数は、通常1～3個で構成されます。

#### 3.1.2 表示領域の設定

HTMLのmeta要素にname="viewport"を記述し、content属性にはwidth=device-widthとinitial-scale=1をコマンドで区切って記述することが現在は多いです。

#### 3.1.3 レスponsiveになったときの工数

スマホサイトとPCサイトで別ソースにするのではなく、レスponsiveにしてワンソースにすると、一般的には制作工数が減ったり保守性が向上したりします。しかしそれはCSSで要素の並びを変更したりする程度のデザインであった場合です。

そのため、レスponsiveにする場合は、ビジュアルデザインを制作する段階からレスponsiveにすることを考慮しなければいけません。

~~~~~  
note:属性とプロパティ

属性とプロパティはどちらも「属性」のことですが、英語ではattributeとpropertyであるように、本書でも区別しています。HTMLは「属性」、CSSは「プロパティ」と覚えると良いでしょう。

例えば、<br style="display: none;">のコードは、br要素のstyle属性にスタイルを設定、displayプロパティにnoneを設定している、と読めます。

~~~~~

## <<目次>>

### 第1章 対応ブラウザを決める

#### 1.1 IE11 以上対応という選択肢

#### 1.2 ブラウザシェア

#### 1.3 IE10 以下非対応の恩恵

### 第2章 CSS の指定の基本

#### 2.1 単位

#### 2.2 セレクター

#### 2.3 擬似クラス

#### 2.4 擬似要素

### 第3章 気持ちよく書ける CSS

#### 3.1 メディアクエリーでレスポンシブ化

#### 3.2 フレックスボックスで横並び

#### 3.3 画像を使わないデザイン

#### 3.4 値の計算

#### 3.5 色の指定

#### 3.6 最初や最後の要素を指定

#### 3.7 変形

#### 3.8 状態の変化にアニメーションを加える

#### 3.9 状態にアニメーションを加える

#### 3.10 背景画像の大きさを調整

#### 3.11 カウンター

#### 3.12 ボーダーに画像を設定

#### 3.13 :target :checked をトリガー代わりに

#### 3.14 その他の便利な CSS

#### 3.15 もう使ってもいいだろうという CSS

## <<著者紹介>>

吉川 雅彦

1982年生まれ。大阪出身。HTML、CSSのコーディングを中心に、マーケティング、ディレクション、デザイン、プログラミングなども行う。プログラマーからデザイナーへ転身し、受託 web 制作会社、フリーランス、株式会社カカコム（食ベログ）などを経る。個人としても web サイトの制作や、受託なども行う。代表作に、しおりを作って共有できるサービス「行程さん」がある。

web サイト:<https://yoshikawaweb.com/>

Twitter:<https://twitter.com/masahiko888>

## <<販売ストア>>

電子書籍:

Amazon Kindle ストア、楽天 kobo イーブックストア、Apple iBookstore、紀伊國屋書店 Kinoppy、Google Play Store、honto 電子書籍ストア、Sony Reader Store、BookLive!、BOOK☆WALKER

印刷書籍:

Amazon.co.jp、三省堂書店オンデマンド、honto ネットストア、楽天ブックス

※ 各ストアでの販売は準備が整いしだい開始されます。

※ 全国の一般書店からもご注文いただけます。

**【株式会社インプレス R&D】** <https://nextpublishing.jp/>

株式会社インプレス R&D（本社：東京都千代田区、代表取締役社長：井芹昌信）は、デジタルファーストの次世代型電子出版プラットフォーム「NextPublishing」を運営する企業です。また自らも、NextPublishing を使った「インターネット白書」の出版など IT 関連メディア事業を展開しています。

※NextPublishing は、インプレス R&D が開発した電子出版プラットフォーム(またはメソッド)の名称です。電子書籍と印刷書籍の同時制作、プリント・オンデマンド(POD)による品切れ解消などの伝統的出版の課題を解決しています。これにより、伝統的出版では経済的に困難な多品種少部数の出版を可能にし、優秀な個人や組織が持つ多様な知の流通を目指しています。

**【インプレスグループ】** <https://www.impressholdings.com/>

株式会社インプレスホールディングス(本社:東京都千代田区、代表取締役:唐島夏生、証券コード:東証1部9479)を  
持株会社とするメディアグループ。「IT」「音楽」「デザイン」「山岳・自然」「モバイルサービス」を主要テーマに専門性  
の高いコンテンツ+サービスを提供するメディア事業を展開しています。

**【お問い合わせ先】**

株式会社インプレス R&D NextPublishing センター

TEL 03-6837-4820

電子メール: np-info@impress.co.jp